

## 大学生の進路選択におけるキャリア・アダプタビリティに関する研究

### —レジリエンスとの関連から—

本研究は、レジリエンスという心理的な特性を含んだ大学生のキャリア・アダプタビリティの概念を測定する尺度の開発とその妥当性の確認を行うこと、そして、大学生の進路選択の代表的な場面である就職活動について、就職活動不安尺度・就職活動状況との相関関係を検討することを目的として研究を行った。

65 項目からなる予備尺度に項目分析と因子分析を行った結果から、「コミュニケーション」「ソーシャルサポート」「将来展望」「積極的対処」「課題実行」「楽観性」の 6 つの側面からなる大学生版キャリア・アダプタビリティ尺度が構成された。また自己有用感尺度や R-ICBS・職業忌避傾向尺度の相関関係から妥当性が確認された。

大学生版キャリア・アダプタビリティ尺度と就職活動状況との間には、一つの質問項目にのみ 5%水準の有意な負の相関が確認された。このように、多くの質問項目と相関関係が見られなかったことは、キャリア・アダプタビリティという概念が生涯に渡る各発達段階に沿って育まれるものであり、「就職活動」という大学生の進路選択は一場面、捉えられるものではない概念であると解釈できた。今後の課題として就職活動のような特定の状況に注目せず、大学生という発達段階を一つの区切りとし、縦断的に捉えた調査を行う必要があると考えられた。